

新市立伊勢総合病院

基本理念

『人間性豊かな市民病院』

～市民の健康増進、生活の質の向上を目指して～
～愛情と誇りを持てる病院を目指して～



「人間性豊かな市民病院」の整備と 切れ目のない医療の提供を行います

■地域医療における役割と医療機能

～健康増進・疾病予防、医療・ケア、介護、福祉の統合において市の施策の推進・遂行～

新病院建設にあたり、病院の規模・機能については、三重大学医学部、伊勢地区医師会、伊勢地区歯科医師会、伊勢保健所等から医療に関する有識者を迎え、検討をいただき医療の方針を決めてきました。

新病院では、急性期医療・救急医療を担うとともに、医療需要予測のもと、一般病床を減少し、地域に不足している回復期リハビリテーション病床の充実、緩和ケア病床の開設等、将来的に不足すると予測される機能を確保し、患者数の増加に対応していきます。

また、病棟は、特別な改修をせずに病床機能を転換できるように設計していますので、将来の医療需要の変化にも柔軟に対応が可能です。

市民病院の役割として、地域の医療機関と連携し、切れ目のない医療を提供していきます。

急性期医療
救急医療

「人間性豊かな市民病院」

～市民の健康増進、生活の質の向上を目指して～

～愛情と誇りを持てる病院を目指して～

回復期医療
慢性期医療
緩和ケア

予防医学
(健診)

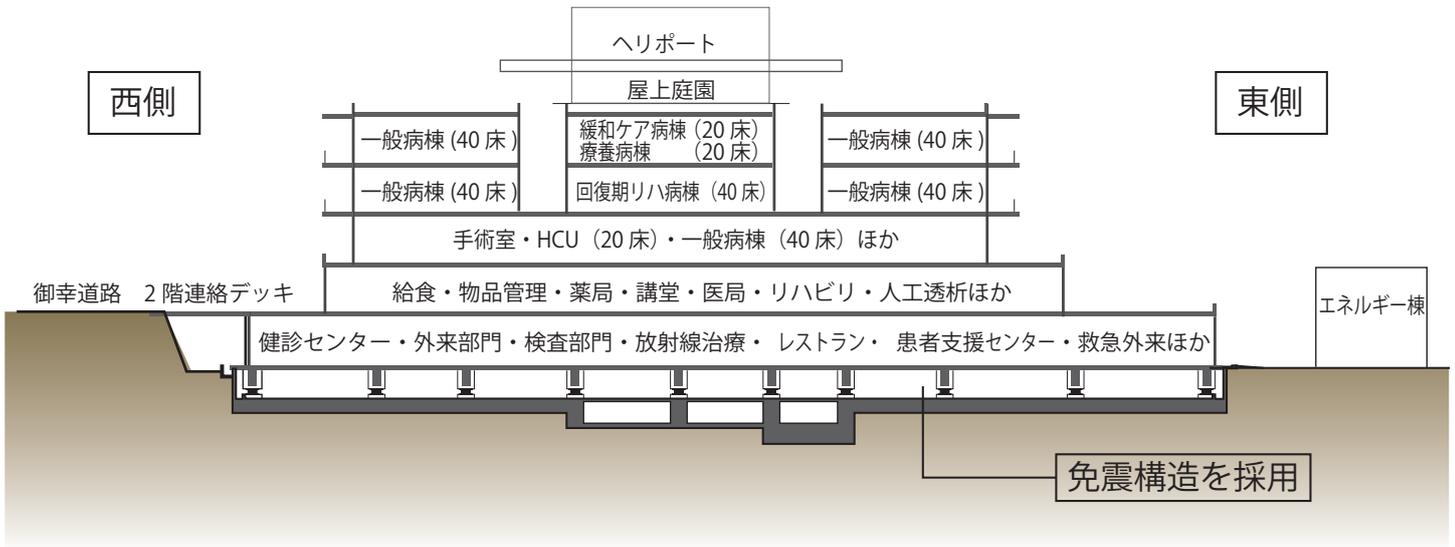
現病院	
一般病床	270床
緩和ケア病床	-
療養病床	22床
回復期リハ病床	30床
計	322床



新病院	
一般病床	220床
緩和ケア病床	20床
療養病床	20床
回復期リハ病床	40床
計	300床



階層図



■ 事業費の見直し

(単位：百万円)

完成した実施設計に基づく積算を踏まえて、建設工事費を見直しました。

労務単価や建設資材などの影響により、増加となります。

医療を支える機器や電子カルテなどの整備費についても見直しを行いました。

事業費の一部として、国から補助事業の交付金を受けて進めていきます。

	平成 25 年 3 月 基本計画	平成 27 年 8 月 基本設計完成時点	平成 28 年 8 月 実施設計完成時点
用地取得	80	163	163
調査・設計等	262	304	304
工事 (うち建設工事)	8,293 (7,087)	13,524 (11,400)	14,324 (12,200)
医療機器等	2,700	2,700	4,000
諸準備	75	129	129
合計	11,410	16,820	※ 18,920

※エネルギーサービス事業として、エネルギー棟の整備(約9億2千万円)及び保守管理業務の委託を別途実施予定です。開院後のエネルギーコストの削減や災害時の安定したエネルギー供給を目指してまいります。

■ スケジュールの見直し

建設工事の工程を踏まえて、スケジュールの見直しを行いました。

平成 31 年 1 月の新病院開院を目指して進めていきます。

また、建設工事と並行して、医療機器等の整備や移転計画の検討についても進めていきます。

なお、新病院開院までは現病院での診療を継続して行います。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
建設設計業務	実施設計				
建設工事	施工予定者選定	実施設計の支援	新病院本体建設工事		
敷地造成工事	敷地造成工事			新病院開院 平成 31 年 1 月	既存病院解体 駐車場等整備
新病院開院				移転準備	開院

■ 災害に強い病院

近い将来、東海・東南海・南海地震等の巨大地震の発生により、当地域においても大きな被害がもたらされることが予想されます。

伊勢総合病院は、ヘリポートを有する災害医療支援病院として、大規模災害の発生時に災害拠点病院を支援し、補完する機能を担っています。

現病院は耐震基準を満たしていませんが、新病院では、免震構造とし、会議室やロビー・リハビリテーション室等を患者の治療や避難住民の収容スペースとして活用可能な設計としています。

大規模災害発生時にも医療を継続して行い、地域の拠点的機能を備えた、災害に強い病院を目指します。



防災訓練実施状況

■ 手術室の運用強化

伊勢総合病院では、県内でも数少ない「手の外科」の専門治療が可能で、手の切断などの複雑な手術も数多い手術実績があります。

また、腹腔鏡手術の割合は県内でも多く、腹部手術の6～7割の患者が腹腔鏡で手術を受けています。

現病院では、手術室5室を使用していますが、救急患者受入が重なった時には、手術予定患者を待たせてしまうことがあります。

新病院の手術室は6室となりますので、効率的な運用による手術計画が可能となります。



■ 充実した医療機器・医療情報システム

新病院建設に合わせて老朽化した医療機器等の整備を行っていきます。

放射線治療で予定している最新医療機器は、現行機器に比べ、精度が高く、照射時間が最速で4分の1となり、患者への負担が軽減されます。

リハビリにおいては、安全懸架装置及び免荷式リハビリリフト(歩行訓練装置)の導入により、発症早期からの安全な歩行訓練が可能となり、歩行能力のさらなる向上が期待できます。

また、電子カルテの導入により、三重大学をはじめとする地域の医療機関とのネットワークの充実や、疾病予防、治療・療養など健康を支える基盤整備を行います。



病棟スタッフステーションイメージ



4床室イメージ

計画概要

建設場所	伊勢市楠部町 3038 番地（現地建替え）
敷地面積	約 36,800㎡
延床面積	病院棟 :25,288㎡（エネルギー棟含む） 保育所 :220㎡
構造	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造 （柱 :PCaRC 造、梁 :S 梁造、免震構造）
階数	地上 5 階 塔屋 2 階（機械室・ヘリポート）
病床数	300 床（一般 220 床、緩和ケア 20 床、療養 20 床、回復期リハ 40 床）
診療科	20 科 内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科・形成外科・皮膚科・泌尿器科・ 産婦人科・小児科・耳鼻いんこう科・眼科・精神科・歯科口腔外科・放射線科・ 麻酔科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・緩和ケア内科

